

令和3年度第1回 岐阜県生涯学習審議会 議事録

日 時	令和3年7月12日（月） 14:00～15:30
場 所	OKBふれあい会館4階403小会議室
出席者	<p><委員> 9名（欠席委員4名） 浅野委員、衣斐委員、後藤委員、小林委員、内木委員、丹羽委員、野原委員、福田委員、米原委員</p> <p><県> 5名 尾崎環境生活部次長、山田環境生活政策課長、長屋環境生活政策課生涯学習企画監、山田環境生活政策課係長、高井環境生活政策課主査</p>

会議の概要

1 開会

2 挨拶

（尾崎環境生活部次長）

- ・本日は生涯学習振興指針の方向性案についてご審議いただく。
- ・県では、生涯学習を通じて得た個人の方の学びの成果を、地域の課題解決に活用する「地域づくり型生涯学習」を推進している。
- ・昨年2月の審議会で、委員の皆様には改定についてのご意見をいただいている。
- ・本日はそれぞれの経験や立場から、忌憚のないご意見をいただきたい。

3 会長挨拶

（丹羽会長）

- ・現在コロナ禍で、各所でワクチン接種が行われている。皆様におかれましても健康には十分ご留意いただきたい。
- ・今年度は5年に一度の指針改定の重要な節目の年である。
- ・指針の内容について審議いただくとともに、みなさんの普段の活動の紹介も含めて話していただき、指針内容に反映させることができればよいと考えている。

4 議事

（1）岐阜県生涯学習振興指針の改定について

事務局による以下の説明を行った。

- ・現行指針の「地域づくり型生涯学習」の考え方を継続すること。
- ・コーディネーター人材の確保・育成方策を具体的に盛り込むこと。
- ・多様性・包摂性のある持続可能な社会の実現を図る内容を盛り込むこと。
- ・法的位置づけや県内計画との関係性。
- ・国の動向や県の社会情勢を踏まえた課題。
- ・市町村アンケートや有識者の意見聴取からの課題。
- ・次期指針の全体構成案、基本理念案、基本方針案。

また以下のとおり発言があった。

（丹羽会長）

説明内容の確認を行った。

- ・推進期間は令和4年から令和8年の5年間であること。
- ・平成19年からの指針の理念である「地域づくり型生涯学習」について、昨年2月の審議会で提案があったとおり、継続すること。また、継続には異論がないこと。

- ・基本理念、方針の確認。
- ・皆様が活動されていることで漏れていることがないか。
- ・お一人お一人、意見をいただきながら、活動の紹介も併せてお話いただきたい。

(後藤委員)

- ・SDGs など、新しい視点が多く盛り込まれており、大変良い。
- ・SDGs は、現在認知度54%であり、昨年度から倍増している。今後5年間でさらに広がると予測でき、指針の方向性としては良いのではないか。
- ・特に、10代の認知度は70%であり、若い世代での意識が高い。
- ・SDGs ではジェンダーの平等も入っているので、指針にも入れてよいのではないか。
- ・SDGs の認知度からすれば、具体的に盛り込んでもわかりやすいのではないか。
- ・社会教育委員の会では、以前から研修などで実践発表の場があり、活動紹介を行っており、研鑽が進んでいる。社会教育委員の位置づけについても、盛り込んでもよいのではないか。
- ・社会教育士のほかに、社会教育委員の方や、公民館主事等の、すでに地域の中で活動されており、つなげる役割を担っている人たちをどのように位置づけていくかが課題である。
- ・組織編成上の課題はあるが、県の行政が一体となって、協働していく必要がある。一つにまとめる、プラットフォームを作るなどの対応が必要となってくるのではないか。
- ・コロナ禍で、学校教育ではデジタル化が進んでいる。生涯学習では遅れている。高齢者には難しいかもしれないが取り入れていくことはできるのではないか。
- ・たとえば、啓発動画等を見ていただいているが、使い方によって、効果があると感じている。

(野原委員)

- ・わかりやすい指針となっている。
- ・インプットの学びが多い中で、アウトプットの主体的な学び・活動が多く盛り込まれているのはよい。
- ・コロナ禍でオンラインがメインになってきているが、ハイブリッド型を強調し、人と人とのつながりは大事にしていきたいという部分が入っていることはよい。
- ・指針にあるとおり、これからの時代、若者を取り込んでいくことは大事な要素である。
- ・本巢市でも地域の高校生が小・中学生に教えるなどの交流事業をおこなっている。
- ・これからを支える若者をいかに取り込んでいくかは、「清流の国ぎふ」を支え、「ふるさとぎふ」に対する愛着を育むことにつながり、人生100年時代における多岐にわたる学びや、リカレント教育もある中で、大事にしていきたい部分である。

(小林委員)

- ・環境教育を行っているが、SDGs や持続可能な社会の視点・概念をしっかりと入れていく必要があると感じている。
- ・気候変動の講座では、防災の内容に踏み込んではいけないなど、講座内容の細かな割り振りがあり、実施において困難さを感じている。
- ・依頼側の要望をしっかりと伝えてもらうことが大切である。
- ・タブレット使用が当たり前になり、授業の形態が多様化しているので、使用する側のスキルを上げていく必要がある。
- ・学校連携において、コーディネーターの育成が難しいと感じている。コーディネーターには、分野の専門的な知識や求めていることを察する能力が必要とされる。コーディネーターの育成は簡単ではない。思いや気持ちだけでできる役割ではない。誰でもできることではないのでイメージをしっかりと固定して、作っていく必要がある。
- ・それにはチームを組んで、ベテラン、中堅、新米などで行っていくとよいのではないか。
- ・対象が年少者なのか、高齢者なのかによっても違うので、求めていることを把握してコーディネートできる能力が必要となる。育成したい人材を具体化していく必要がある。
- ・地域にいる人材（シーズ）をブラッシュアップすることも必要であり、自分自身も活動の中で行ってきたが、困難さを感じているので、具体的に行っていく必要がある。
- ・生涯学習の場所づくりも必要であるが、プログラムを整備することも必要であり、コーディネーターの役割が重要となる。

(浅野委員)

- ・普段行っている教育活動の中で、生涯にわたる学びを意識していきたいと感じた。
- ・学校教育の場で、専門家に講座を行っていただくことがあるが、その場合のコーディネーターは教員になるので、その役割を意識して行うことが必要になると感じた。
- ・教育の場で、授業参観や発表会をオンラインで行うなどICTの活用が進んだが、子どもたちは適応力が高く、すぐに使うことができるようになっている。保護者にとっても、職場からでもつながることができるなど、気軽にできることがとてもよい。ICTが身近になっている。生涯にわたる学びの機会の拡大になっているので、ICT活用は推奨していきたい。

(衣斐委員)

- ・公民館のあり方が変化してきている。サークル活動の場から、地域活動の場が変わってきている。
- ・社会教育士資格を取るにあたって、多様な人との交流の中で視野が広がった。活動の理由付けができるようになった。
- ・公民館にサークル活動にきている人たちが、地域づくりに目を向けることの難しさを感じている。それをつなげていくのが、コーディネーターの役割でもある。
- ・揖斐川町は、生涯学習を担う組織編成の関係上、地域づくりに関する活動が困難になっている部分もある。
- ・行政も一緒になって学び、同じ方向を向いて行うことが大切である。そのための指針であってほしい。

(内木委員)

- ・活動を行っている人びとの情報を集めて発信している。
- ・学校、コミュニティ・スクール等の活動が素晴らしい。
- ・一方で取材の立場、情報発信の立場からすると、取材しにくい部分もある。
- ・組織編成の問題は発想を変えないと実際の活動につながらないのではないかな。
- ・活動、取組としてはすでに素晴らしいものがあるので、発信、取りまとめ側の組織を一元化する工夫が求められる。窓口を一つにする。シンプルな組織づくりなど。
- ・指針の実現のために、実質的に機能する仕組みをお願いしたい。

(福田委員)

- ・主任児童委員として活動している。
- ・様々な家庭の事情で、ICT化が遅れているところもある。
- ・親子ともその経験がない家庭に対して、どう支援していくかの視点も大切である。
- ・親子で絵本の読み聞かせをしたり、遊具で遊んだりする経験がない子どもたちもいる。
- ・少数かもしれないが、取り残されてしまう子どもたちがいることを知っていただきたい。

(米原委員)

- ・大変わかりやすい指針となっている。
- ・コロナ禍で、講座がハイブリッド化されたが、デジタル対応ができず、やめた人たちがいた。続けた方もスムーズにできたわけではなく、機器の取り扱いを学びながら進めたという現状である。講座の主催以上に、デジタル・デバイドの解消のために時間をとった。
- ・ICT対応に前向きな高齢の方もおり、新しいことを取り入れていくのに年齢は関係ないと感じた。
- ・様々な部署、役割が一体となって行っていく必要がある。

(以 上)